

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071600912		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム御井つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市御井町 2011番地 (電話)0942-45-0967		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 3 日	評価結果確定日	令和 3 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

* 駐車場の隅に置いてあるプランターで家庭菜園を行っておりその収穫や花の水やりを行うことで自宅で土いじりが好きな方にしてもらったり、外出出来ない状況で楽しんで頂く為にお菓子づくりや寿司パーティーなどの催し物を定期的に行っている。(1階)
* 強い入浴拒否がある方でも巧みな話術や工夫で清潔保持に努めることが職員全員できるようになった。(2階)
* 利用者本人の生活リズムに合わせて、排泄介助や日中の休憩、就寝時間などを考慮しながら支援している。また職員が働きやすいよう要望に応じて役割担当を決めている。(3階)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 2 年 11 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

施設環境は、大学等が近くにあり、住宅地に位置する3階建ての建物の中にある3ユニットである。近隣の方々とも、夏祭りなどで交流がある。居室には畳が置かれ、安心できる雰囲気がある。利用者家族には定期的にお便り「生き生きだより」が送られ、利用者には現況についての一文を書いていただくなど、家族への配慮がなされている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差した理念を作り、朝礼で唱和し日々理念を念頭に置いて仕事出来る様にしている。	理念はフロアに貼られていて、毎朝、朝礼時に唱和をしている。ホーム内で問題が起きると理念に戻り、その人らしい生き方ができるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に入り、校区の掃除やイベントに参加したり、苑での行事に参加して頂くことで行流を深めている。	自治会に加入しており、近隣の方は、季節の花の種を渡すなどの友好関係がある。地域で行われる「どんど焼き」や秋祭りなどに参加し、近隣とも交流を行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近では事業所のみで地域のイベントでの認知症の講習は行っていないが、他の事業所と合同では大きなイベントを行う事ができた。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で起こった事故や看取り等をレクなどを報告している。それに対して地域の方々より意見を頂きそれをサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されている。行政や利用者、家族の参加がある。生活上の意見や要望が出され、外出や行事内容などに意見が反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスで不明な点があればすぐに相談、確認し関係が薄くならぬように努めている。	市町村とは運営推進会議以外でも情報交換を行い、事故報告のために訪問や電話連絡をしている。法令の理解や情報の共有のために協力関係を作っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げ、日常のケアの中でも身体拘束を行っていない。研修に関しては年2回行っている。玄関の施錠は急な坂がある為家族に確認し行っている。	事業所内で「身体拘束ゼロ」の研修や家族への説明が行われている。周辺に急な坂があるため、安全対策として玄関に施錠がされている。今後、時間をおいて一時開放を考えている。	玄関を開放できるような安全対策を検討して欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行うことで虐待をしない、させない状況を作りに努めている。また、もし虐待があれば通報義務があることを職員が認知し隠蔽しないようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑全体で日常生活自立支援事業を1名と成年後見制度を2名の方が利用されている。研修でも勉強しているが実際に携わると大変勉強になっている。	職員は内部研修を通じて、制度を理解しており、家族には入所時などの説明で、制度の説明がされている。実際に、成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している利用者がいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族にしっかり説明を行い、その都度納得して頂いたか確認を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気付かれたことを聞いて、その後職員間で話し合い改善に努めている。	意見箱があり、家族や利用者から、生活やホーム運営への意見を聞き取っている。利用者が持つ経験や希望が叶うように配慮している。ビールを飲んだり、音楽演奏など家庭に近い環境を心掛けている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者と職員の距離が近く、意見を言いやすい雰囲気を作っている為、いつでも聞いてもらえ、意見を反映することも出来ている。	職員会議や各階のフロア長会議を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。行事や外出先の検討など、利用者から聞き取ったアイデアがホーム運営に生かされている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に反映する評価制度を導入している。介護業務の条件整備も見直され、職員は各自、努力が報われやりがいを持って支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢に関係なく、やる気のある方に関しては積極的に採用している。採用後もその人がやりがいを持って働けるような職場環境を整えている。	職員採用では年齢や性別に差別することがないよう「人権尊重」に配慮している。職員は5年、10年以上の安定した勤務経験がある。職員の教育や経験について、希望が叶うような配慮を行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常々、問題にぶつかった時は理念に戻る様指導し利用者が尊厳のある生活が送れるよう指導している。また、職員自身の悩み事があれば上司、同僚にいつでも話せる雰囲気づくりを行っている。	新型コロナの感染防止で集合研修の実施が難しい中で、遠隔研修などが行われ、人権について自己評価を職員が行い、管理者などが点検をしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的にいくよう勧めしており、受講料や交通費などは事業所が全額もしくは一部負担することで研修に参加しやすい環境が整っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った方などとその場限りでなく連絡を取り合うなどして情報交換をしたりしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話聞き、不安に思っていることがあれば納得されるまで聞くことで安心して入所していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や負担になっていることを聞くことで何が必要なのかを判断し安心して任せて頂けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から相談を受け、希望・要望を伺い他のサービスが必要であれば他機関と連携し必要なサービスの検討に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんの出来ることの中で役割を持って頂き、作業等を通じて共に過ごし支え合う支援に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を送り、状態をお知らせしている。面会時や電話で連絡を取り、情報共有し、家族への協力をお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに出掛けたり買い物に行ったりと、これまで本人が関係を築いてきた人や場所が途切れないよう努めている。	新型コロナの影響で外出ができない環境であるが、通信「生き生きだより」など手紙での家族との交流や、これまでの関係性を継続できる取り組みを行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が顔を見て話せるようにテーブルを配置している。席を自由に移動出来るようにして誰とでも関係を築けるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても次の移転先に必要な情報を伝えている。また、家族の様子も伺うよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人と会話を通じて希望や意向の把握に努め、全職員で共有、検討し、出来る限り対応するようにしている。	家族や利用者からの聞き取りで、利用者の思いや希望を「連絡帳」に記載し、職員相互で共有している。行きたいところや食べ物など機会あるたびに実現に取り組んでいる。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族から話を伺い、生活歴を把握し慣れ親しんだ生活に近づけるよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話やバイタル測定、表情の変化等で心身状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために課題やケアについて検討し介護計画を作成している。3ヶ月毎に介護計画の見直しをして家族に了承を頂いている。	毎月行われるカンファレンスでは、短期目標の期限が来る利用者について、カンファレンスで担当者会議を行っている。苑の協力医師が出席する担当者会議を別途開催しており、全利用者について医師参加の担当者会議が持たれている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の気持ちや思いを詳細に記録し職員間で情報の共有をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム以外のサービスが必要なら対応出来るよう本人・家族・関機関と連携し柔軟な支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の中にあり、地域資源との協働は困難な状況にある。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医をお尋ねし出来る限り受診をするようにしている。当苑の主治医でいい所は定期的な往診と急変時の往診を受けられるようにしている。	入所後のかかりつけ医をどこにするか、入所時に確認している。各利用者について、入所後のかかりつけ医は誰かフェースシートに記載されている。受診の方法については、利用者家族それぞれの事情に応じて対応している。必要の際には、施設の車椅子搬送車両で受診送迎している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で気付いた事があった場合はすぐに看護師に報告し指示を仰いでいる。また、看護師からも看護の知識を教わったりしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と連携を取り支援に努めている。入院されている方には情報提供を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では出来る限りのことを行い、家族以外の所では家族に確認し知人の方などにも連絡し面会に来てもらったりしている。	これまで数十人を看取った経験から5年ほど前に「重度化対応・看取り介護指針」が整備された。入所から終末(死)までを4段階に分けており、次の段階に移る度に、医師から説明を受けた後、苑と家族とで決め事を確認している。看取り段階では、家族の希望に応じ家族の同宿も受け入れている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習には最近は行っていない状態である。。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の人々や他の事業所の協力が得られるように日頃から話し合いを行い一緒に訓練を行う事が必要だが令和2年はコロナの関係で訓練は出来ていない。備蓄品置き場を1階に設け定期的に賞味期限のチェックを行い食品の入れ替えを行っている。	ハザードマップ上は土砂災害危険区域に当たり、土砂災害に合わせた避難計画も策定し、避難訓練も実施している。火災の避難訓練の際には、消火器の取り扱いや救急措置の訓練も行うため、地域にも声かけし、毎回数名の参加がある。外部からの救援者用に、各階踊り場には各階の配置図、利用者名、歩行状況等を貼り出している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守りプライバシーの確保を徹底し利用者の尊厳と権利を守る為の配慮をしている。理念に基づき優しい笑顔、言葉、心で対応する様に心掛けている。	面会者には職員が面会カードを渡し、記入を受けたカードを職員が別に綴じており、他の面会者に面会情報は漏れない。利用者の氏名や写真が使用される可能性について契約の際に説明し、了解を得ている。面会者との話の内容によっては、共用部分から離れた、事務室に案内している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定を大切にしている。本人が希望を言いやすい様な環境づくりやゆっくりしたペースを保てるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしている。起床、就寝、食事の時間も強制せず柔軟に対応している。暮らしの主人公である本人を見守りながらその動きや状態に合わせて適切なかわり方をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えたりおしゃれをすることは本人の心地よさ、落ち着き、明るさ、自分としての意識等をもたらす全体的な状態の安定にもつながります。訪問美容で好みの髪型にカットしたり、行きつけの美容室に送迎していた。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクを兼ね、お菓子作りや寿司パーティーを計画し、利用者と一緒に作ることもある。また、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるように支援している。	自施設食堂で調理したものが提供されている。調理室にはアレルギーとは別に、全利用者の好き嫌いが貼り出しており、調理者は献立の際にその表を見て個別に具材や献立を変えている。菜園で採れたもの、敷地内で採れた果実があれば献立に加えている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食事形態を考えその人に合った形態で対応している。食事、水分量はチェックシートに記入し1日の摂取量を把握している。栄養面は主治医に相談し栄養補助食品や好みの物を提供する。声掛け、見守りし無理なく食べられる様にしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は本人にやって頂く。半分介助したりできることをやって頂く。その他の方は本人の状態に合わせて介助を行う。また、訪問歯科を利用し口腔ケア、治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自身で行かれる方もあるが車椅子や歩くのが困難な方が多い為、その方に応じた介助を行っている。訴えることが出来ない方はチェックシートを見て声掛け誘導を行っている。パッド交換もチェック表を利用し定期的に不潔にならないようにしている。	トイレでの排泄を目指して支援しており、夜間はトイレの照明や廊下の非常灯、ステーションの明かり等でトイレへの移動も安全に行えているが、歩行に不安がある利用者にはポータブルトイレを貸し出している。利用者の排泄のサインについては、各職員が気付いたサインを連絡帳に書き留めている。各職員はそれらの情報を共有しながら対応を絞っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を促すよう食事や運動で予防したり、自然の食物繊維を使用している。下剤等の習慣化は避けている。一人一人の便秘の原因を探り家族や医師、看護師にも相談しながら自然排便を促す工夫をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者全員がお風呂好きで入浴を楽しみにしてあるので一人一人の希望を尊重し、入浴出来るよう支援している。その方の生活習慣や希望を大切に支援を心掛けている。	各フロアに浴室があり、毎日入浴できる準備を行っている。施設は丘陵地に建てられていて、浴室の窓は丘の斜面に面しており、浴室から季節の移り変わりを楽しむことが出来る。脱衣場にエアコンの用意はあるが、冬場には別に暖房器具を用意している。入浴は1日おきが基本であるが、希望があれば、連続しての入浴も出来る。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類等は気持ちよく使える様にこまめに洗濯したり布団干しなどを行っている。季節によっては寝具を変えたりする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にスタッフ2名で日付、名前、いつの薬かを確認し服薬支援を行っている。薬を飲み込まれるまで見守りを行っている。飲み込みが困難な方は粉碎しゼリーに混ぜて対応している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやテーブル拭き、ちり紙畳、新聞折り等の生活リハを一人一人が出来る範囲で行ってもらっている。天気が良ければ散歩や草むしりなど土いじりが好きな方には外に出てもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩に出掛けたり、外で外気浴などを行っている。	新型コロナ対策として、今期の外出行事はほぼ行えていない。例年であれば、季節の花々見物に市内各所にドライブに出たり、市内のショッピングセンターやファミリーレストランに出かけたりしていた。近くの公園まで散歩がてらに出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望される物を買に行ったりご自分でお金を持っている方は外出や買い物時に自分のお金から支払いをして買い物などを楽しんでもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を利用者に書いて頂いている。担当スタッフも一言添え、家族に郵送している。電話は要望があればその都度対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁飾りを利用者と一緒で作成している。2階に広々としたベランダがあり、どなたでも外に出て外の風を肌で感じて頂く事が出来る。	各階は3cmほどの木目模様のクッションが敷き詰められたバリアフリーになっている。廊下が広く、食堂ステーションも壁で仕切られていないため一つの大きな広間に感じられてゆったりしている。フロア全体も明るく風通しが良い。廊下の所々にソファが置かれていて、利用者は思い思いに寛いでいる。廊下にも空調が取り付けられている。また、冬場には加湿器が用意されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士やご夫婦の利用者を同じテーブルに集い、話せる様に工夫している。また、テーブルの距離をあけ一人になれるスペースもある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を自宅から持ってきて頂きそのまま使用したり、居室内にその方が好きな芸能人のポスターをはったりと過ごしやすい空間を作れるようにしている。	居室は転倒事故防止対策として畳敷きになっているが、希望によりフローリングにも応じている。畳は、新規入所者を受け入れる際に取り替えている。畳の縁には廊下との段差解消のためにスロープを取り付けている。居室ドアは引き戸になっている。また、小窓がないため戸を閉めれば外から中の様子は窺えない。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所、居室の場所が分かるように表示して迷わないでご自身でいけるように工夫している。また、廊下などに物をおかず動線を確認し安全に行動出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として交流を深めていく文言を理念に組み込んでおり、理念の重要性を浸透させるため、朝礼時に出勤職員で唱和し一日のスタートとして支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域行事の一斉清掃にも参加して隣組の方と協力することから施設の存在を知っていただく機会となっている。最近では花の苗のやり取りもできて「花が咲きましたよ」と報告するまで関係が築けている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回行っている運営推進会議に地域代表者に参加して頂き、民生委員に地域高齢者の状況や困りごとを訪ねてそこで施設の支援法など、意見交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設側から利用者の生活状況や看取り（死に対する向き合い方）や事故・行事報告をしている。事故・ヒヤリ報告の中で「危険予知」を増やして事故を未然に防ぐ取り組みの意見を頂き、とても参考になっている。令和2年は新型コロナウイルス予防の為、メンバーさんへ書面報告をし郵送でご意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアサービスに対する不明点があれば、運営推進会議で相談したり、または電話で尋ねてアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2018年より身体拘束を行うと減算対象になることも皆が周知し、年2回の研修にも取り組み、身体拘束によって高齢者が受ける弊害を認識することで拘束は行わない支援を実践している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士の声掛け一つにも耳を傾け向けており、少しでも不適切な部分が見えれば、指導しあい、改善することへ取り組んでいる。職員全員が研修・勉強会に参加し、小さなことでも見逃さないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、苑全体で日常生活自立支援事業を1名と成年後見制度を2名の方が利用されている。研修でも取り組んでいるが実際に携わると大変勉強になっている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、疑問点があれば納得して頂くよう、詳しく説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に気付かれたこと・要望を伺い、職員で検討し改善に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているフロア長会議とカンファレンス会議に苑長と管理者が参加しており、職員から出た意見も取り上げ、検討して出来る事は対処している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に反映する評価制度を導入している。介護業務の条件整備も見直され、職員は各自、努力が報われやりがいを持って支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は性別・年齢等は問わず、高齢者に対する思いやりの部分を重視している。入職後はその人の能力が十分発揮できるような環境を整えている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者が幸せな時間を過ごせるように一人ひとりの思いを尊重することに取り組んでいる。また職員自身も幸せな気持ちで働けるよう、困り事や悩み等があれば聞き出し、出来る事は解決することで職員の思いを尊重している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、苑全体の研修と認知症ケアに関する研修を行っている。職員が年間のケア行動目標を立て定期的に達成度の面接の時間を設けその段階での「出来ている、出来てない」を判断して次につなげている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で顔見知りになり、交流の機会を作ったり、校区地域密着型事業所同士で不明な点があれば、電話でやり取りし情報交換をしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人とご家族に生活歴等の聞き取りの時間を設け、本人の困りごと・不安に思うことに耳を傾け、不安なく入所できるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族側の立場も考慮し、困り事や不安を伺い、グループホームの方針やできる事・できない事を伝え、良い関係が築けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族や入所前の施設より情報収集を行い、その時点で何が必要かを見極め、支援につなげている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げている「人として共に過ごし、学び、支えあう関係」を築くよう努めている。利用者の主体性を尊重したケアを心掛け、職員が知らないことを利用者より学び、一緒に掃除、作業等を日々の暮らしの中で共にすることができている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族へ手紙を利用し、利用者の近況報告をしている。また、利用者の体調に変化があった時はその日のうちに家族へ電話連絡している。行事等、できる限り家族にも一緒に参加して頂き、ご家族とグループホームが共に利用者を支えていけるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に過ごす時間を持ってもらったり、入所前から関わりのあった方が訪ねて来られる等、馴染みの関係が途切れないように努めている。施設としても馴染みの場所へ出掛ける計画を立て実行している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で一人ひとりの関係性を職員は把握し、利用者が孤立しないようにレクリエーションや行事等で関わる機会があるため、利用者同士の交流ができるよう支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情で契約終了となっても次の移転先へ必要な情報を詳しく伝えている。退所された方の郵便物が届いた際はご家族に連絡して郵送することもある。また家族に利用者が過ごされた日々の様子の写真をまとめ、苑での生活を振り返ってもらい悲しみを乗り越える一助として家族に渡している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向は一定でない時もあるため、普段の会話の中から把握できるようゆっくり話ができる環境作りに努め、その都度、本人に確認するようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の本人との会話や家族から今までの生活歴や暮らしの内容を情報収集し、個人フェイスシートに残し、アセスメントやケアプランに反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴をもとにその人らしい過ごし方ができるよう、日々の支援の中で把握することに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活していられる様に家族や必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援内容などを個別記録に記入し、職員間で情報共有し、より良い支援の実践に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に添えるよう職員間で話し合い、臨機応変に対応し、その方に合ったサービスを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の中にあり、地域資源との協働は困難な状況にある。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調の状態や変化を把握し、ご家族の希望も取り入れ、苑の看護師がかかりつけ医へ受診支援を行っている。苑の主治医は24時間体制で対応して頂き、医療機関と連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で得た情報や気づきを苑の看護師に報告し、指示を受けている。また、協力病院の医師と連携して医療が受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には普段の状況や特徴を伝え、病院関係者と情報交換を行い、定期的にお見舞いに伺い、状態を尋ねている。退院後も通院や往診が必要になれば、ご本人、ご家族、病院と連携して支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期における医療に関する方針は入所時にご本人、ご家族へ説明し書面で意向を伺っている。その時が来たらご本人、ご家族、主治医が話し合いを設け、その結果に基づいて医療関係者と苑の職員もチームの一員となり、支援に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、マニュアルの整備もできている。苑全体の研修で年1回は勉強している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定して利用者、職員と一緒に実施している。また、消防設備の定期点検も受けている。備蓄品は1階厨房の隣に保管し、消費期限のチェックも行い防災の日に備蓄品の入れ替えをしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけを行っているがすべての方に敬語対応が出来ていない時がある。尊厳とプライバシーの確保は人としての権利であるため、厳守することに取り組んでいく。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら、「お茶碗を洗います」と希望される方が3名ほどいらっしゃる。洗い場に並ばれた後姿は微笑ましさを感じる。今後も職員と一緒に日常を過ごし、「できる事」をやって頂く支援に取り組んでいく。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた支援を心掛けている。起床、休息、入床までその方のペースで外気浴や散歩の支援も取り入れ、一人ひとりの希望に沿うよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を決定できるよう導く声掛けをし、ご本人に選んでもらっている。利用者から「少し、前髪を切ってください。下の方を2cm位切ってください」など、要望があれば、職員がカットすることもある。もちろんご家族にも了解を頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好み・苦手な食べ物を聞き取り、その日のメニューが、苦手なものであれば代用のものを提供することで完食できるよう工夫している。誕生日にはご本人に食べたいものをリクエストしてもらってみんなでお祝いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取が困難な方にはご家族の了解の上メイバランスやアイソカルゼリーなどの栄養食で補っている。また、水分摂取の困難な方にはご本人の好んで飲まれるジュース類を提供し、水分の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯に使用な場合は食べ物が義歯に挟まり歯茎炎症の原因になるので食後は口腔ケアをするよう心掛けているが残念ながら全員の方はできていない。しかし、夕食後だけは全員の方の支援に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の認識があり、自立されている方は布パンツで対応している。介助が必要な方はリハビリパンツを使用しているが排泄記録を確認しながら個々のサインや排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指し、声掛け誘導に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のサンファイバーをほぼ全員の方が毎日、使用して便秘予防に取り組んでいる。腸を動かす運動として椅子に座り、足の上げ下げや歩行訓練にも取り組んでいる。それでも困難な方は主治医に相談し、快適な日々が送れるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者は原則1日おきの入浴にしているが希望時や必要時には入浴している。入浴拒否の強い利用者もいるが辛抱強く声掛けの工夫を続けた甲斐あり、今では拒否はあるものの、大分素直に入浴できている。少しでも楽しく入浴してもらえるようこれからも工夫に取り組んでいく。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望があれば、休息支援もその方に合わせて行っている。足のむくみがある方は午前・午後と短時間ベッドに横になって休んでもらっている。寝具類の洗濯や布団干しもこまめに行い、良眠できる支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐ為に二人の職員で確認して飲み込まれるまで見届けている。薬が変わった時は状態の変化に気を付け、変化があれば主治医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや笑顔のある日々を過ごせるようその方にあった役割を見つけ出し、職員も楽しみながら支援に取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年は買い物や人混みへの支援は極力避けた生活に徹している。そのような中でも実家へ帰りたいという希望があったため、ご家族にあらゆる面の確認を取り、職員と1対1の支援はできた。日常では人のいない近くの公園まで散歩に出かけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、ここ最近はできていないが近くのコンビニへ何人かで出かけ、ご本人が好きなものを手に取って選び、支払いまで済ませる支援に取り組んでいる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より「うちに電話して」やご家族や知人より電話がかかってきた時はご本人と話してもらっている。また、「ハガキを買ってきてください。親戚に出したいので」と職員に頼まれ、希望に沿う支援に取り組んでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移り変わりを感じてもらうために、各階のフロアにそれぞれが工夫した飾りつけを利用者と一緒で作成している。フロアの蛍光灯、居室の蛍光灯の明るさは高齢者の目に優しいものを選んでる。共用空間には混乱を避けるため、大きな字で分かりやすく表示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活が苦手となられた利用者には談話スペースのソファや居室に案内するなど一人の時間の確保にも努めている。また、気が合う方同士を同じテーブルに集い、会話を楽しめる工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みのものはそのまま使用されており。ご家族の写真を飾るなど、環境を大きく変えないよう努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の身体機能の状態に合わせ、危険防止・残存能力を活かせる設備や道具の工夫に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
			○	④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者への支援について本人本位を主とした理念があり、毎朝の申し送り時において、その理念を唱和し、また日々、支援を行う際は理念を念頭に置いて行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ感染流行にて交流を制限しているが、それ以前は、施設の行事に地域の方々も参加してもらおうなどの交流していた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との交流はコロナ感染予防のため行っていないが、運営推進会議を開催し地域の方との意見交換することで、地域に活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している。利用者の生活状況や事故報告、今後の活動計画などを報告し、参加者から意見や要望を聞いて、今後活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市役所介護保険課の職員や地域包括センターの職員に参加してもらっている。利用者の状況を報告し、必要に応じて助言を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針に基づいて、身体拘束廃止検討委員会での話し合いや年2回の研修を行い、全職員にケアの向上や理解を深めることに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	理念を念頭に置いて、利用者に寄り添う支援を徹底している。また職員間で注意しあって虐待につながらないよう防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の利用や成年後見人制度を利用している。後見人との話し合いを通して学んだり、勉強会にて学んだりしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をかけながら、納得できるよう分かりやすく説明している。料金など変更が生じた場合には、通知を出して対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望があれば、職員会議に取り上げ、支援の向上につなげている。また運営推進会議と通して、外部者へ報告を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回開催しているフロア長会議や職員会議の場をつかって、職員の意見や提案を取り上げており、業務の改善に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに今年度の目標を全職員に掲げてもらい、定期的に個人面談を行うことで進捗状況を確認している。年度末に自己評価を行い、その評価を給与に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢で排除せず、介護に熱意がある方を採用している。また、職員には、状況に応じて働きやすいよう配慮を行い、継続して働けるよう環境を整えている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に基づき、共に支えあう関係に努め、利用者が笑顔で過ごせるように取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、動画による研修を行い、介護技術の向上に取り組んでいる。また、外部研修を受ける場合には、シフトを調整して負担なく受講できるよう配慮している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて同業者と交流を行い、必要に応じて電話などで連絡を取り合うことで質の向上につなげている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人と家族との話し合いの場を設けて、要望などの意見を伺っている。必要に応じて体験入所を行うことで本人との関係づくりしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、本人と家族との話し合いの場を設けて、要望などの意見を伺っている。家族の介護状況や悩みなどを傾聴し、本人の思いも考慮しながら家族にも安心して生活ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談や関係している支援機関からの情報提供をもとに、ニーズを見極め、医療機関などの他のサービス利用も含めた支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食器を洗ったり、フロアや居室の掃除をしたりするなど、家事を通して利用者ができる範囲で共に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に手紙を書いて状態を報告したり、面会に来られた時に近況を報告し、家族に本人のことを理解してもらっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限を行っている現状ではあるが、感染予防を十分に行った上で、面会を行っている。また、馴染みのある店に行くなどの支援を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が他の利用者のお世話をしたり、利用者同士と一緒に会話をして楽しんでいる。また、風船バレーなどのレクを通して利用者同士の関わりの支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後、他のサービスに移行されていた場合には、本人の要望など含めた情報を提供し、不安感を払拭できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々介護をしながら利用者の意見を聞き、支援に工夫を行っている。また困難な場合には、今までの生活状況や利用者の気持ちを予測し支援に取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの情報は、関係機関からの情報提供に加え、入所時に本人と家族に尋ねて把握している。また入所された後も本人との会話の中で把握するように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や職員からの報告などで生活状況を把握した上で、職員間で検討し、利用者の能力を見極め、できる限り利用者で行ってもらうよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の時、職員がアセスメントした結果報告をもとに、ケアのあり方を検討している。検討した結果に加え、家族や主治医からの意見も参考にしながら介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化を見逃さず、記録を行っている。申し送りの他、各自職員が記録を読み、日々の支援の在り方に工夫をし、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化していく利用者の状況に合わせて、ニーズの把握に努め、最も良い支援を目指し、柔軟な支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の中にあり、地域資源との協働は困難な状況にある。それ以前は美容室を利用するなど地域に関わる暮らしに努めていた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が以前から受診されていたかかりつけ医と連携を取ったり、状況によって、利用者や家族の同意のもと、事業所協力医療機関の医師をかかりつけ医に移行して、受診や往診を受けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の体調を観察して、状態の変化に気づいたら職場内の看護師に報告して、受診や往診など適切な医療支援につながるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関に今までの経過をまとめた情報提供書を提供している。また退院の際には家族や病院関係者と連絡を取り合い、困難なく退院ができるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の症状の変化について、家族やかかりつけ医と話し合いながら、対応方針を共有し、全職員、家族、医師などの関係者と連携して支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修を受け、夜間時にも対応できるよう連絡網を作り、慌てずに適切な行動ができるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員が災害を想定し、対策を考えて日頃から気象情報を確認している。また災害時の避難訓練をし、手順を身につけるよう努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけが慇懃無礼にならないように、方言を交えて、その人の人格、誇りやプライバシーを尊重し、生きて来た人生を考慮しながら話しかけ対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が悩んでいる事、訴えたいこと、何をしたいかなどに耳を傾けている。食器を洗いたいなどの意思が確認できれば、一緒に職員と行うように取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が起床時間を遅くしたい、就寝時間を遅らせたいなどの要望があれば、利用者にペースに合わせて支援をしている。時々、散歩、ドライブで息抜きをしてもらっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の更衣の時に上着を数着用意し、選択できるように支援している。また、鏡の前に案内し、ブラシを渡して、整髪ができるよう支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員から楽しめるような話題を提供しながら、利用者に合わせて見守りや介助を行い、食後も一緒に片付けられるよう取り組みをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に応じた食事形態（ミキサー食、キザミ食など）を検討し、また白飯の量を決めて、適切な栄養摂取ができるよう工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて、声掛けや介助を行っている。義歯の方は、就寝前は外して洗浄剤に浸けている。また定期的に歯科の往診を受けて口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、排泄の記録を取っており、それを活用しながら、排泄パターンを見極め、トイレでの排泄を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者には、食物繊維入りの健康食品を提供している。また、トイレにて排便が出るよう前傾姿勢にして腹部マッサージを行う。また主治医から便秘薬を処方されているので、指示に基づいて服用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	原則1日おきに入浴するようにしているが、利用者から要望があれば入浴ができるようにしている。また、入浴を断れた場合も無理に勧めないように対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状況に合わせて、日中休憩を取り組んでいる。眠れない方がいれば温かい飲み物を提供するなどして安心感を持ってもらうよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬は主治医や薬剤師に確認をとりながら、服用の支援を行っている。また服用後、利用者に変化があった場合、職場内の看護師に報告し、主治医の指示を受けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ユニット合同の行事はコロナ禍にて行っていない。規模は小さいが季節に合わせた行事を行っている。また、利用者の希望に合わせて家事の手伝いや散歩などを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍を考慮して、多人数での外出は避けている。利用者数名と一緒に、近くの公園へ歩いて出かけたり、敷地内で外気浴を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望に応じて、少額のお金を渡して、本人に管理してもらっている。買い物に行った時には職員が側に付き添って利用者に支払いをしてもらうよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があれば支援を行っている。また暑中見舞いや年賀状には、利用者に一筆書いてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けをしたり、テーブルなどに花を飾って近くで楽しめるように工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や利用者の生活動線を考慮してテーブルや席の配置を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、馴染みのある家具や小物を持参してもらい、今までの生活環境に少しでも近付けて安心して過ごしてもらうように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札を利用者の視線に合わせて設置したり、身体能力に合わせてベッドか敷布団にしている。必要に応じて、家具にクッション材を付けるなどして工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		